

口は健康のもと Vol.187

無味乾燥 ～「口腔内科」編～ 高齢化で増える口腔疾患

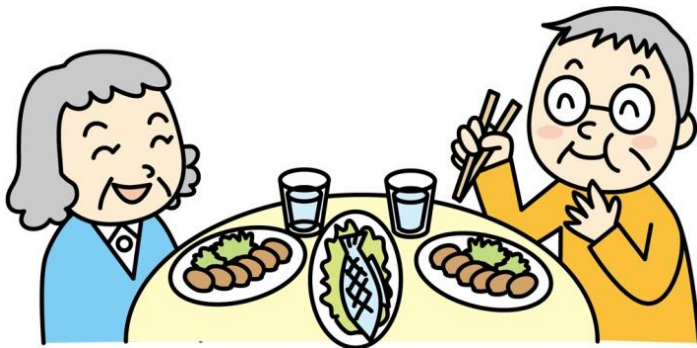
「無味乾燥」と題し、これまで「無味」編（味覚障害）、「乾燥」編（口腔乾燥症）とお話しさせていただきましたが、今回の「口腔内科」編で完結となります。

「口腔内科」といっても、聞き馴染みのない方が大半だと思います。一般的な歯科治療のイメージは、削る・詰める・抜くではないでしょうか？ これらの処置は侵襲を伴う「外科」になりますが、口腔内科では外科処置以外の治療法を主体として行います。今回、口腔内科について少しでも皆さんに知って頂ければ幸いです。

口腔内科では、口の中に出現する様々な症状を、全身的な背景や疾患を考慮し、必要に応じて医科の先生と連携して診断・治療を行います。取り扱う疾患は、口腔乾燥症、味覚障害、口臭症、舌痛症、口腔粘膜疾患、唾液腺疾患、顎関節疾患、神経疾患、摂食嚥下障害、口腔心身症（口腔と関連する精神疾患）など多岐にわたります。

治療法は、手術などの外科的アプローチは最小限とし、主として投薬などの内科的アプローチを行います。近年の高齢化社会に伴い、口腔内科疾患は増加傾向にあり、口腔内科の役割が重要になってきます。

口腔内科疾患で悩んでおられる方は、お気軽にご相談下さい。



奥羽大学歯学部附属病院

口腔外科 講師 川原 一郎

